

傳樂田舎原氏
一

特 別
A13
4274
1





仁

毒

毒

種
花
地

上編初

113
4274
1

91-2332

江州石山寺寶紫式部古硯

文政己丑新彫初編上



田舎源氏

柳亭種彦作
歌川國貞画

仙鶴堂梓



大正の真中日本橋小近き式部小路とりよ所ふいと媚きたる女あり
阿藤とあんりりる初元結のそれあて紫の鬘紐を木むまひ
けまみ人あそふまも浮名と紫式部とそひひる自もりつる見を吹ぬり
裁名小園ある源氏物ごりふ似する双紙を作らんと旦女心ふりけれと
書々草ごり一のわんは後む歌二上り三下り旋頭奇あて字除り一丸の
ごりつを知りそのあまが紅筆筆をたふ喋ごりか或人女ふひひる々河海の
深き湖月の廣きそれ虫眼のおよそと毛要を摘ごる若草あは紅白雛鶴
鬘鏡小鏡あんとを照し合ハ微ハ意を解も便とあらんまの十帖源氏
より讀まひねとまを免られ左言文の註文がき書房もありく漢語
ごり雛鶴とあはあらんと所千代まで翁草これ間違の三番使若草
新内節十帖源氏ハ浄溜隔本の物草太郎と推量して木は竹本の
上後妻討のうち棍と引書も略揃ひなればこそ物語とせはるのそり且

原大か扇

案ずる邊ちりき近江店ハ名ニ縁ハありあがら大路をきりし車の音米
 けさ白のむくひ女貞の宿めきて月を見ふふさうあ一爰ふままの空言雨を
 當るといふも固ある後炮洲ニ知音あり観音井のわさ福ど人丸の社
 治し石屋の二階小住してをうふし八月十五日海原ふら所を深め
 明石町ふり筆をさう延の紙五十四帖蛭蚓書して目毛鼻もこけらぬ
 草紙を著しぬそむ昔の紫式部ハ天台の深理を極法華經乃
 裏とやらん六道流轉の因縁を心小こめて書しうと後偽紫の今の
 式部ハ性質の艶りのめて目もとて殺して罪ハ洗ふと佛乃道ふ
 うとくれハ三觀四門一部ハ巻錢の相場と思ひし心も賤く詞を
 りしく源氏のまがれて賤きと田舎といふ字小知されたりと
 貴賤上下をわしめて笑ぬ人こそあうられ

文政十二年己丑正月

柳亭種彦記



源氏物語

東山義正公
桐壺の帝小比



何れに
おのれの
こもを
あつて
あつて
あつて

長恨歌

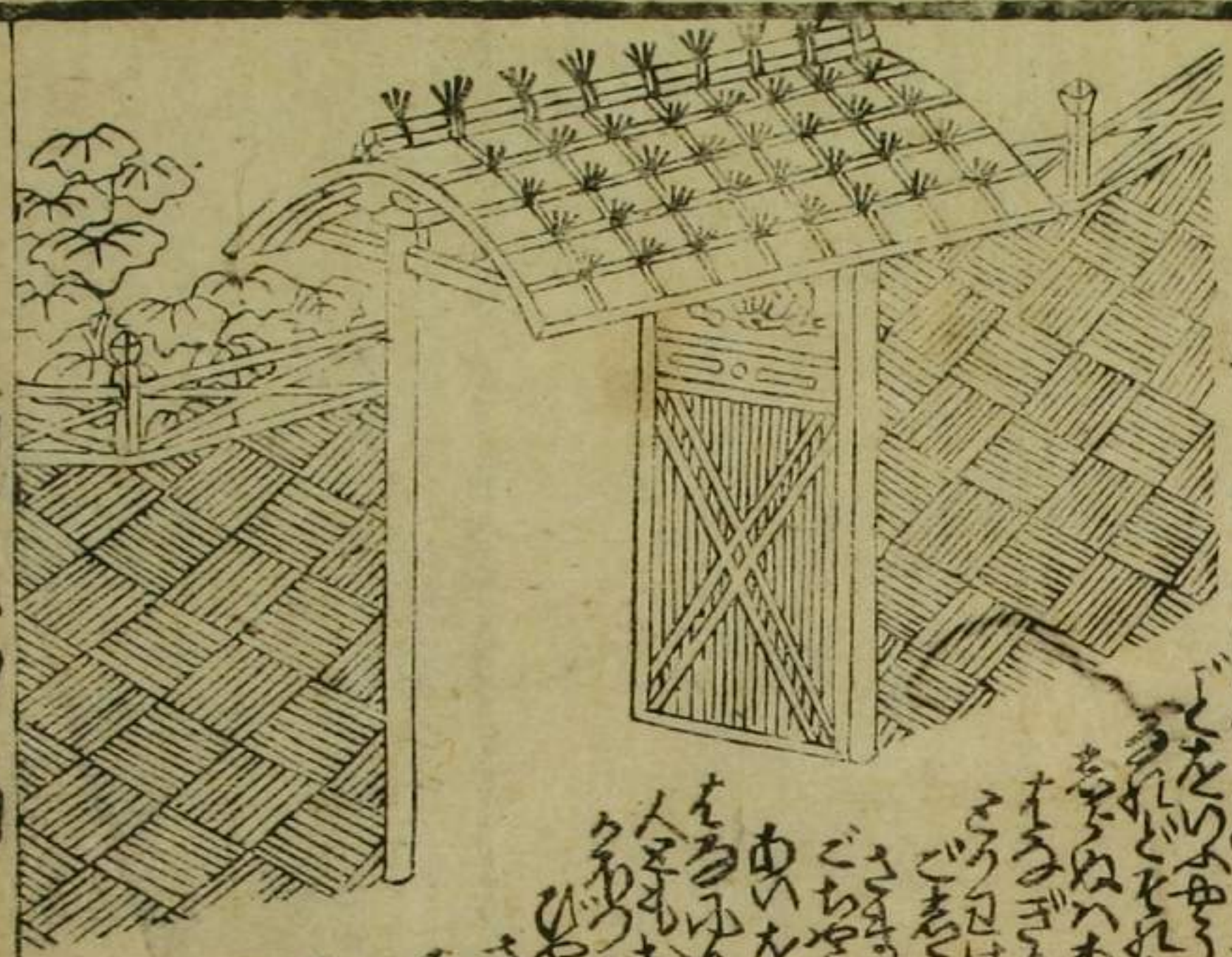
春宵苦

短

日高起

義正の愛妻
花桐
桐壺の更衣小比





あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

更衣小
比ス

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの



あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

初編下



初編下

採色書

初編下





うしろの
うしろの
うしろの
うしろの
うしろの
うしろの
うしろの
うしろの
うしろの
うしろの

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの



あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

源氏物語卷之十七
此段文字描述了光源氏在夜間於御所中與藤原氏成員的會面。文中詳細敘述了光源氏的言行、服飾以及當時的宮廷禮儀。文字採用平假名書寫，字跡清晰，行間整齊。



此段文字位於插圖下方，繼續敘述光源氏與藤原氏成員的會面。文中提到光源氏的言行舉止，以及當時的宮廷禮儀。文字採用平假名書寫，字跡清晰，行間整齊。

源氏物語卷之十七
此段文字描述光源氏在夜間於御所中與藤原氏成員的會面。文中詳細敘述了光源氏的言行、服飾以及當時的宮廷禮儀。文字採用平假名書寫，字跡清晰，行間整齊。



此段文字位於插圖下方，繼續敘述光源氏與藤原氏成員的會面。文中提到光源氏的言行舉止，以及當時的宮廷禮儀。文字採用平假名書寫，字跡清晰，行間整齊。

Handwritten text in a cursive style, likely a commentary on the scene depicted in the illustration. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left.



Handwritten text in a cursive style, continuing the commentary on the scene. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left.



江戸の町は賑わい
 花見の季節は
 春の風は暖かい
 桜の花は満開
 江戸の町は賑わい
 花見の季節は
 春の風は暖かい
 桜の花は満開

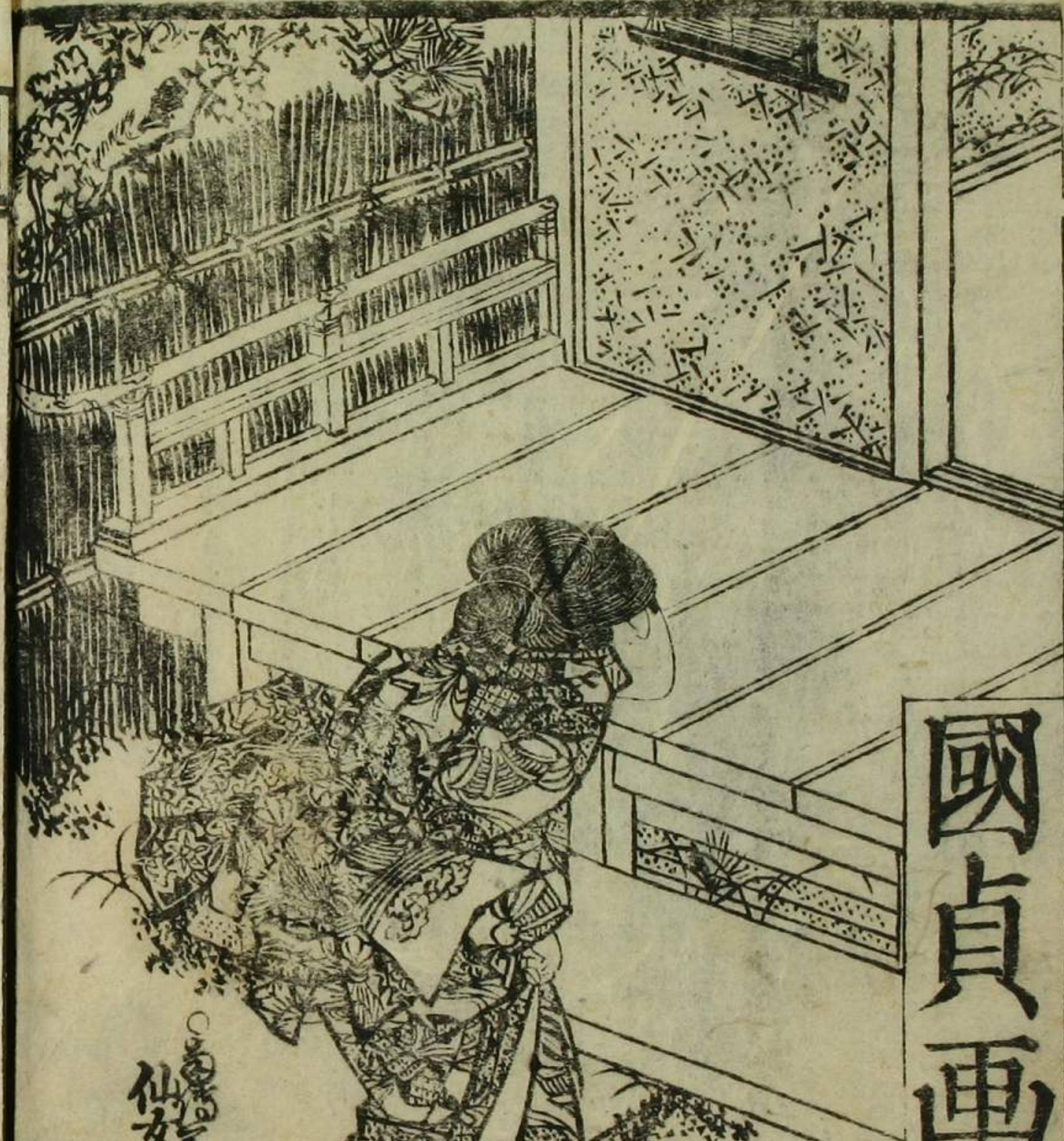
その時
 江戸の町
 賑わい
 花見の季節
 春の風は暖かい
 桜の花は満開



江戸の町は賑わい
 花見の季節は
 春の風は暖かい
 桜の花は満開
 江戸の町は賑わい
 花見の季節は
 春の風は暖かい
 桜の花は満開

その時
 江戸の町
 賑わい
 花見の季節
 春の風は暖かい
 桜の花は満開

國貞画種彦作



此の巻の初編の初巻の
源氏物語の初編の初巻の
源氏物語の初編の初巻の
源氏物語の初編の初巻の
源氏物語の初編の初巻の

作者正三

筆耕 千形道友
仙女香白

字寶節用千金藏

大全書状案文

源氏百人一首宝文庫

女用文章色紙染

御家 正流 子供案文

柳亭隨筆 還魂紙料

田舎源氏文の初編の初巻の
廿八編目録の初編の初巻の
中何れも略す所の初編の初巻の
あり為年より初編の初巻の
おさ中の初編の初巻の

初編既刻 二編近刻
種彦書
真彦二画
全三冊
全三冊
全三冊
全三冊
全三冊
全三冊
全三冊
全三冊

仙鶴堂藏板目録

地本類東錦繪問九

鶴屋喜右衛門



